

# 備える 3.11から 災前の策

# 第153回 都市防災の盲点

## 大阪北部地震で浮き彫り

大阪府北部で6月18日朝に起きた最大震度6弱の地震は、都市防災のもろさを浮き彫りにした。鉄道は運休が相次ぎ、通勤者らが駅にあふれた帰宅困難に。水道やガスなどのライフラインも寸断された。また、倒壊したブロック塀の下敷きになって女性が亡くなるなど屋外の防災対策の遅れも目立った。今回は大阪府北部地震を教訓に、都市に潜む危険への備えを考える。(天田優里)



「流死塔」が救った後世の命。過去に何度か津波被害を受けた三重県紀北町長島で、野田氏には、過去の津波を伝える石碑が残る。紀北町長島の野田氏(左)が、過去の津波被害を伝える石碑を手にしている。



大阪府北部地震で、東海道新幹線が運休となり、帰宅困難者が駅に滞留した。大阪府北部地震で、東海道新幹線が運休となり、帰宅困難者が駅に滞留した。



家屋や神社など建物の被害が大きかった二〇一六年の熊本地震と異なり、大阪府北部地震では、これまで対策が見送られてきたブロック塀による被害が目についた。しかし、これまでで最大の被害は、屋外の建築物の倒壊や落下による被害は相次いでおり、専門家は盲点からの注意の必要性を指摘する。

## 危険な塀 進まぬ撤去

発生年	地震の名称	最大震度	被害状況
1978	宮城県沖地震	5	死者28人中、18人がブロック塀などの倒壊で死亡
2005	福岡県西方沖地震	6弱	ブロック塀の下敷きになった福岡市の75歳の女性が死亡
16	熊本地震	7	熊本県益城町で倒壊したブロック塀の下敷きになった2人のうち、1人が死亡
18	大阪府北部地震	6弱	大阪府高槻市と大槻市で倒壊したブロック塀の下敷きになった9歳の女性を含む2人が死亡



倒壊したブロック塀による主な被害。大阪府北部地震で、東海道新幹線が運休となり、帰宅困難者が駅に滞留した。また、倒壊したブロック塀の下敷きになって女性が亡くなるなど屋外の防災対策の遅れも目立った。

「一九七八年の宮城県沖地震では、死者二十八人中、十八人が倒壊した塀や右の向けられた。しかし、これまで最大の被害は、屋外の建築物の倒壊や落下による被害は相次いでおり、専門家は盲点からの注意の必要性を指摘する。」

## 帰宅困難者 駅にあふれ

大阪府北部地震では、東海道新幹線が運休となり、帰宅困難者が駅に滞留した。駅周辺は人でいっぱいになり、混乱が広がった。また、駅周辺の道路も寸断された。

## 名古屋市 1万7000人 収容先なし

名古屋市の被災者は、帰宅困難者として駅周辺に滞留した。しかし、市内には十分な収容先が確保できず、多くの被災者が避難先を失った。また、市内の道路も寸断された。

「名古屋市の被災者は、帰宅困難者として駅周辺に滞留した。しかし、市内には十分な収容先が確保できず、多くの被災者が避難先を失った。」

## 歴史に学ぶ



「流死塔」が救った後世の命。過去に何度か津波被害を受けた三重県紀北町長島で、野田氏には、過去の津波を伝える石碑が残る。紀北町長島の野田氏(左)が、過去の津波被害を伝える石碑を手にしている。

「流死塔」が救った後世の命。過去に何度か津波被害を受けた三重県紀北町長島で、野田氏には、過去の津波を伝える石碑が残る。紀北町長島の野田氏(左)が、過去の津波被害を伝える石碑を手にしている。